

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201205		
法人名	医療法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム やまなみ ユニットA		
所在地	大分県別府市大字南立石274-2		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体は精神科医療機関であり、介護老人保健施設に併設された施設である。母体の有するグラウンドや体育館はいつでも利用でき、また施設周辺には遊歩道があり季節を感じながらの散歩は運動機能や認知機能の低下予防にもなっている。施設の温泉を利用しての入浴は皆さん喜ばれる。家事等の日常活動を生活の中に取り入れ実践している。施設に看護師が配置されており病院との連携により医療面での充実も図られている。現在コロナ禍のため制限があるが、地域との交流も積極的に行い認知症の理解も得ている、この状況が落ち着いてからは再開予定である。防災面においても設置母体や併設施設又は地域との協力体制が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・九州横断道路沿いにあり、桜や樹々に囲まれ自然の中に昔ながらの施設がある。
- ・母体が精神科医療機関であり、介護施設も併設されている。
- ・職員と一緒に、おしゃれに化粧をしたり楽しそうに過ごしている。
- ・ホールや玄関に季節の花々が飾られ、落ち着いた雰囲気の中、時間が流れている。
- ・地域との交流も積極的に行われている。
- ・今は、コロナ禍で外出できないがリモート初詣で気分を味わう等、支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民との交流を深め、利用者様が社会活動に参加できるようにサービスを提供している。介護予防の意識を高め歩くことの重要性を認識し、活動等による健康作りを支援している。	理念を施設内に掲示し、理念にある個性と尊厳を重視した自立支援に、職員一人一人が実践に向け質の高いサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入しており地域の活動には準備から関り利用者の参加により協力関係ができています。地域で開催されるオンラインカフェにも参加している。コロナ禍にて中止が多いが再開時には参加予定である。	自治会に加入し、地域の公民館行事や清掃に利用者と一緒に参加し交流している。コロナ禍で地域行事が中止になる事も多いが、再開の時を心待ちにしているという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様が地域活動に積極的に参加することにより、地域住民と認知症の人との関わりが増え、みんなで支えあう地域作りを目指して活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活・行事の様子をスライド写真で紹介している。家族や地域と活発な意見交換ができており、よりよい支援に繋げることができている。	二か月に一度コロナ禍で書面で開催。毎回テーマを決め事業報告や行事広報誌を入れ意見交換が出来る様努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員が必ず運営推進会議に参加しており、現状を伝えながら、意見を頂く機会もあり、協力関係を築いている。また気軽に相談に応じてくれ、その都度アドバイスを受けている。	市役所には現状を伝え意見を聞く機会もあり、その都度連絡相談も出来連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は8:30~17:00は開錠、防犯上の理由と17時以降は職員配置の関係もあり施設している。委員会を設け毎月の委員会と年2回の研修会を実施、適切なケア実現に取り組んでいる。	夜間は職員が少ない為、玄関は施設している。グループホーム委員会で年2回勉強会をし毎月の職員会議でも意見を聞き適切な共有認識でケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しており、年に2回の研修会を実施している。困難事例はスタッフ間で情報共有し、家族やスタッフの心身状態にも配慮しながら、ケアを振り返ることで、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回内部研修を実施し、成年後見制度や高齢者の権利擁護についてソーシャルワーカーより講義を受けた。スタッフの意識も高まり、社会資源の活用にも至っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容や事業所の理念、方針を事前又は契約時に説明し、疑問点を確認しながら同意を得ている。運営規程、看取り、重度化指針等、常時掲示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時にはその都度声をかけ、意向の確認や近況を報告している。関わりが少なくなっている家族には、電話や文書で働きかけることもある。	ご家族には訪問時に声掛けし意見を頂いたり、電話で意見を聞き、支援に繋げている。今はコロナ禍でリモートでの会話をする事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し、職員からの意見を聞く機会を設けており、提案については代表者とも共有している。又委員会においても同じである。	職員会議を月末に開催し業務改善や備品の購入等提案を聞く機会をもうけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回人事考課を行い、昇給に反映させている。資格取得も給与水準に反映している。また、従業者同士でも資格を取得する雰囲気があり、給与に反映させる事でやりがいや向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月スタッフ全員を対象とした認知症ケアの技術指導、確認会議を開催している。コロナ禍で中止の場合は資料を作成、確認するようにしている。また、地域の協議会や行政開催の研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会への参加、また、開催する会議において、交流している。悩みの共有やより良い支援に向けての活動報告など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は人間関係の構築に努め、環境変化への不安解消を図っている。家族からの情報収集に努め、事前の訪問や短時間ホームで過ごしてみる時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人または家族の訪問を基本としており、実際に施設の様子を見て頂き、生活がイメージできる様に情報提供を行っている。また、気になることがあればいつでも連絡をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関や介護老人保健施設からの依頼が多い為、通院の継続や治療についての情報提供を主治医やソーシャルワーカー等関係者より頂き、対応に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自主性を大切にして、料理や清掃などスタッフと一緒に取り組む様に配慮している。スタッフの一方的な関わりにならないよう努めると共に、昔からの暮らしの知恵を教えてもらう機会も多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を十分に行いながら外出や受診の同行をお願いする事により、共に支える意識を共有している。連絡が途切れがちになっている家族には、こちらからのアプローチを増やすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を十分に行いながら、家族と過ごす時間を増やすように努め、墓参りや外泊予定も立案している。コロナ禍でリモート面会の機会を増やす努力を行っている。	コロナ禍のため、馴染みの人との交流もリモート等限られているが、主治医の許可を取りお墓参り等希望に寄り添える様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行える活動を取り入れ、孤立を防いでいる。関係性が築けない利用者に対してはフタッフが見守り、孤立を防ぐ取組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化して、退居するケースが殆んどであり、退院後の不安を相談をする家族も多く、病院のソーシャルワーカーよりの情報で必要時に継続した支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の把握は、家族の存在に左右され、難しいが、本人と関わる中で好み等の把握にも努めている。	会話や日々のかかわりの中で生活歴を見ながら把握に努めている。地方紙などの情報も取り入れ会話に繋げている。 職員間での共有方法で支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の他、関係者から生活の様子やサービスの利用経過等を確認し、生活の継続性を大切にしたケアを展開している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入院を経て、利用するケースが多く、情報収集を行い、入居後から起床時間や生活リズムの把握に努めている。日常生活においては活動を中心に残存機能の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には本人、家族もサービス担当者会議に参加し、課題やケアについて共有しているが、見直すタイミングでの家族の意向確認が難しいケースがある。	本人や家族の意向を聞きながら反映させる様になっている。見直しに柔軟に対応しているが疎遠の方や家族のいない方の対応がとりづらい面もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の意欲的な言動を、気づきメモやにやりほっと等で共有し、介護計画・実践ができるような体制がある。細かい情報もお互いに共有しようと、情報収集を積極的に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人又は家族の要望に対しできる限りかなえるようにしている。外出(現在は少ない)、モート面会、希望するときの散歩。施設の体育館やグラウンドを使用しての運動・レクリエーション、医療機関受診同行など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や地域活動にも個々のレベルに合わ参加予定(現在休止)。毎月の市報や自治会だよりで地域の情報収集をし参考にしながら支援にも繋げている。療機関受診等も家族に代わり、柔軟に対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でのかかりつけ医を継続するケースもあるが、家族がグループホーム併設の医療機関を選択するケースも多い。定期的な受診もできており、突発的な対応も指示のもと専門医療機関に受診もできている。	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。母体の病院以外の対応もあり、突発的な対応も出来る様努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成29年6月より看護師を配置し現在は管理者も看護師であり看護面では、日頃の健康管理から緊急時まで対応する体制が整っている。不在時でも随時相談や緊急時の対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な利用者さまに対しては、スタッフが医療機関に出向き、情報提供を行っている。また、早期退院に向け協力体制を整え入院期間等の情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と医療の依存度が高くなった利用者さまに対し、現状の人員に対して可能な対応を説明し、家族とグループホームが連携しての対応可能な範囲を共有している。	母体が病院であり重度化や終末期の場合も連携が取れる体制がある。やまなみ苑の職員との調整も取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域で開催される研修会の参加、グループホーム内では急変時の対応や連絡体制の見直しを行うと共に実際の症例の振り返りなどを行っている。看護師配置により夜間の連絡体制の充実も図られている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練年2回、風水害訓練年1回、地域の防災訓練には12月に参加を予定しており、防災意識を高めている。運営推進会議では危険箇所を共有している。土砂災害への対応マニュアルの見直しが必要。	マニュアルを作成し年2回避難訓練を行っている。地域の協力もあり、近くに自衛隊も存在し危険箇所も共有出来ている。台風の場合は二階に移動するという。母体に備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントにより、個人のこだわりや大切にしている事を職員間で共有し、関わりの中で言葉かけに活かしている。排泄介助は居室トイレを基本に対応することでプライバシーに配慮している。	職員間で一人一人のこだわり等を共有し、対応には都度気を付けている。 排泄の声掛けにも気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、1日の暮らしの希望を表出しやすいような働きかけの工夫をしている。食事・入浴・外出など様々な場面で自己決定ができるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて散歩や体操などを行っている。今日一日をどのように過ごすか話す機会を作るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由にお化粧できる環境を整えている。月に2回スキンケア教室を開催しており、利用者様の満足度も高い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主な食事は併設施設で調理するが、盛り付けや洗い片づけは役割分担し、支えあう場面もある。また、月に1回料理教室を開催し、メニューの決定から調理までみんなで計画している。	食事は施設にて調理。お粥の方もおり食事前には香りが広がっていた。テーブルに運ぶ人や洗い物を手伝う姿も見られ、雰囲気作りも大切にしている。来週には焼き芋会が計画されており楽しみにしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については併設機関の管理栄養士が作成している。日常的に好みの飲み物を準備する事で水分摂取量の確保に努めている。食事や水分摂取量の確認も個々に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前に口腔ケアを中心に行い、特に夜間は義歯洗浄と残存歯のケアを心掛けている。また、希望に応じて訪問歯科診療を利用でき、口腔内をチェックできる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時、食後、就寝前を基本に排泄を促し対応している、また個々の排泄パターンを把握するため、夜間や早朝の見守りも強化し、排泄の失敗が少なくなっている方もいる。	個人の排泄パターン把握しており失禁も少なくなったという。自立に向け声掛け、見守りで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多様な水分を準備しており、水分摂取や外出等による運動、日常の家事、散歩等で便秘を予防している。緩下剤を使用する利用者也減少している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週2回以上の入浴とその他希望に応じて入浴できる環境にあるが、日中でも午後入浴が中心になっている。夜間入浴は実施していないが、状況に応じて検討する必要がある。	状況に応じて基本週2回入浴だが、一人一人の希望に添える様工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に眠剤を使用する利用者が多い。不眠傾向にある方に対しては入浴時間や回数、日中の活動の見直しを図りながら睡眠に繋げる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師からの指導と薬剤情報提供書を各個人の薬袋に保管、何時でもスタッフが確認出来る様にし副作用等の把握に努めている。また、かかりつけの調剤薬局の薬剤師に相談できる体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共通して、洗濯、食事の片づけ、季節行事や日常の外出、散歩等のレクリエーションにより、気分転換が図られる活動を持続し、計画的に進めている。園芸活動もあり、野菜の成長を楽しむ機会もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の中心は買い物や近隣の散歩、病院受診に限定されるが、季節ごとの行事の中に思い出の場所や地域の行事等を取り入れるようにしている。外出支援できていないが室内レクを充実させ、楽しみの支援を増やす努力をしている。	コロナ禍で外出支援が難しいが、グループホームの前庭で焼き芋会を計画したり、少しでも外気にふれられる様工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	機能に応じて、少額を所持している。買い物の機会に支払いをする利用者もおられるが、金銭を所持していない利用者の方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を預かっている利用者もいるが、希望に応じ使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に関しては毎日の環境整備で整えており、各部署の清掃には特に気を配っている。空調に関しては入居者の状況に配慮して調整をしている。また、装飾も入居者の意見を聞いたり一緒に制作もしており季節感を感じる事が出来る様にしている。	自宅の延長として過ごせる様に畳の空間もあり、ホールには季節の花が飾られている。障子を使った戸があり、外が広く見られる様工夫されている。テーブルに座り、職員と会話しながら化粧をしてもらってる方もいて、家庭的な笑顔が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さいテーブルも配置し、小単位での居場所作りを工夫している。ソファや椅子を設置し自由に利用できるようになっている。時々家具などの配置替えなども行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅から入居するケースでは、利用者や家族がなじみの物を持ち込み、環境を整備する事があるが、長く自宅を離れて利用するケースでは、本人の生活の希望を考慮し、整備している。	居室はベッド・家具は備えつけでテレビはホールにはあるが居室は個人別。入り口には各々工夫されたネームプレートがあり温かみのある障子の小窓があり居心地よく過ごせる様に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯、清掃の活動の他、飲み物の準備等、スタッフに頼らなくても自由に行える様に配置している。また、配下膳もできる方は行っている。興味が湧くように新聞等の配置にも気を配っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201205		
法人名	医療法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム やまなみ ユニットB		
所在地	大分県別府市大字南立石274-2		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体は精神科医療機関であり、介護老人保健施設に併設された施設である。母体の有するグラウンドや体育館はいつでも利用でき、また施設周辺には遊歩道があり季節を感じながらの散歩は運動機能や認知機能の低下予防にもなっている。施設の温泉を利用しての入浴は皆さん喜ばれる。家事等の日常活動を生活の中に取り入れ実践している。施設に看護師が配置されており病院との連携により医療面での充実も図られている。現在コロナ禍のため制限があるが、地域との交流も積極的に行い認知症の理解も得ている、この状況が落ち着いてからは再開予定である。防災面においても設置母体や併設施設又は地域との協力体制が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グルーホーム やまなみ ユニットAに記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民との交流を深め、利用者様が社会活動に参加できるようにサービスを提供している。介護予防の意識を高め歩くことの重要性を認識し、活動等による健康作りを支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入しており地域の活動には準備から関り利用者の参加により協力関係ができています。地域で開催されるオレンジカフェにも参加している。コロナ禍にて中止が多いが再開時には参加予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様が地域活動に積極的に参加することにより、地域住民と認知症の人との関わりが増え、みんなで支えあう地域作りを目指して活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活・行事の様子をスライド写真で紹介している。家族や地域と活発な意見交換ができており、よりよい支援に繋げることができている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員が必ず運営推進会議に参加しており、現状を伝えながら、意見を頂く機会もあり、協力関係を築いている。また気軽に相談に応じてくれ、その都度アドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は8:30~17:00は開錠、防犯上の理由と17時以降は職員配置の関係もあり施錠している。委員会を設け毎月の委員会と年2回の研修会を実施、適切なケア実現に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しており、年に2回の研修会を実施している。困難事例はスタッフ間で情報共有し、家族やスタッフの心身状態にも配慮しながら、ケアを振り返ることで、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回内部研修を実施し、成年後見制度や高齢者の権利擁護についてソーシャルワーカーより講義を受けた。スタッフの意識も高まり、社会資源の活用にも至っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容や事業所の理念、方針を事前又は契約時に説明し、疑問点を確認しながら同意を得ている。運営規程、看取り、重度化指針等、常時掲示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時にはその都度声をかけ、意向の確認や近況を報告している。関わりが少なくなっている家族には、電話や文書で働きかけることもある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し、職員からの意見を聞く機会を設けており、提案については代表者とも共有している。又委員会においても同じである。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回人事考課を行い、昇給に反映させている。資格取得も給与水準に反映している。また、従業者同士でも資格を取得する雰囲気があり、給与に反映させる事でやりがいや向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月スタッフ全員を対象とした認知症ケアの技術指導、確認会議を開催している。コロナ禍で中止の場合は資料を作成、確認するようにしている。また、地域の協議会や行政開催の研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会への参加、また、開催する会議において、交流している。悩みの共有やより良い支援に向けての活動報告など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は人間関係の構築に努め、環境変化への不安解消を図っている。家族からの情報収集に努め、事前の訪問や短時間ホームで過ごしてみる時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人または家族の訪問を基本としており、実際に施設の様子を見て頂き、生活がイメージできる様に情報提供を行っている。また、気になることがあればいつでも連絡をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関や介護老人保健施設からの依頼が多い為、通院の継続や治療についての情報提供を主治医やソーシャルワーカー等関係者より頂き、対応に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自主性を大切にして、料理や清掃などスタッフと一緒に取り組む様に配慮している。スタッフの一方的な関わりにならないよう努めると共に、昔からの暮らしの知恵を教えてもらう機会も多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を十分に行いながら外出や受診の同行をお願いする事により、共に支える意識を共有している。連絡が途切れがちになっている家族には、こちらからのアプローチを増やすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を十分に行いながら、家族と過ごす時間を増やすように努め、墓参りや外泊予定も立案している。コロナ禍でリモート面会の機会を増やす努力を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行える活動を取り入れ、孤立を防いでいる。関係性が築けない利用者に対してはフタッフが見守り、孤立を防ぐ取組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化して、退居するケースが殆んどであり、退院後の不安を相談をする家族も多く、病院のソーシャルワーカーよりの情報で必要時に継続した支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の把握は、家族の存在に左右され、難しいが、本人と関わる中で好み等の把握にも努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の他、関係者から生活の様子やサービスの利用経過等を確認し、生活の継続性を大切にしたケアを展開している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入院を経て、利用するケースが多く、情報収集を行い、入居後から起床時間や生活リズムの把握に努めている。日常生活においては活動を中心に残存機能の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には本人、家族もサービス担当者会議に参加し、課題やケアについて共有しているが、見直すタイミングでの家族の意向確認が難しいケースがある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の意欲的な言動を、気づきメモやにやりほっと等で共有し、介護計画・実践ができるような体制がある。細かい情報もお互いに共有しようと、情報収集を積極的に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人又は家族の要望に対しできる限りかなえるようにしている。外出(現在は少ない)、モート面会、希望するときの散歩。施設の体育館やグラウンドを使用しての運動・レクリエーション、医療機関受診同行など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や地域活動にも個々のレベルに合わ参加予定(現在休止)。毎月の市報や自治会だよりで地域の情報収集をし参考にしながら支援にも繋げている。療機関受診等も家族に代わり、柔軟に対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でのかかりつけ医を継続するケースもあるが、家族がグループホーム併設の医療機関を選択するケースも多い。定期的な受診もできており、突発的な対応も指示のもと専門医療機関に受診もできている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成29年6月より看護師を配置し現在は管理者も看護師であり看護面では、日頃の健康管理から緊急時まで対応する体制が整っている。不在時でも随時相談や緊急時の対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な利用者さまに対しては、スタッフが医療機関に出向き、情報提供を行っている。また、早期退院に向け協力体制を整え入院期間等の情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と医療の依存度が高くなった利用者さまに対し、現状の人員に対して可能な対応を説明し、家族とグループホームが連携しての対応可能な範囲を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域で開催される研修会の参加、グループホーム内では急変時の対応や連絡体制の見直しを行うと共に実際の症例の振り返りなどを行っている。看護師配置により夜間の連絡体制の充実も図られている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練年2回、風水害訓練年1回、地域の防災訓練には12月に参加を予定しており、防災意識を高めている。運営推進会議では危険箇所を共有している。土砂災害への対応マニュアルの見直しが必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントにより、個人のこだわりや大切にしている事を職員間で共有し、関わりの中で言葉かけに活かしている。排泄介助は居室トイレを基本に対応することでプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、1日の暮らしの希望を表出しやすいような働きかけの工夫をしている。食事・入浴・外出など様々な場面で自己決定ができるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて散歩や体操などを行っている。今日一日をどのように過ごすか話す機会を作るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由にお化粧できる環境を整えている。月に2回スキンケア教室を開催しており、利用者様の満足度も高い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主な食事は併設施設で調理するが、盛り付けや洗い片づけは役割分担し、支えあう場面もある。また、月に1回料理教室を開催し、メニューの決定から調理までみんなで計画している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については併設機関の管理栄養士が作成している。日常的に好みの飲み物を準備する事で水分摂取量の確保に努めている。食事や水分摂取量の確認も個々に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前に口腔ケアを中心に行い、特に夜間は義歯洗浄と残存歯のケアを心掛けている。また、希望に応じて訪問歯科診療を利用でき、口腔内をチェックできる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時、食後、就寝前を基本に排泄を促し対応している、また個々の排泄パターンを把握するため、夜間や早朝の見守りも強化し、排泄の失敗が少なくなっている方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多様な水分を準備しており、水分摂取や外出等による運動、日常の家事、散歩等で便秘を予防している。緩下剤を使用する利用者も減少している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週2回以上の入浴とその他希望に応じて入浴できる環境にあるが、日中でも午後入浴が中心になっている。夜間入浴は実施していないが、状況に応じて検討する必要がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に眠剤を使用する利用者が多い。不眠傾向にある方に対しては入浴時間や回数、日中の活動の見直しを図りながら睡眠に繋げる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師からの指導と薬剤情報提供書を各個人の薬袋に保管、何時でもスタッフが確認出来る様にし副作用等の把握に努めている。また、かかりつけの調剤薬局の薬剤師に相談できる体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共通して、洗濯、食事の片づけ、季節行事や日常の外出、散歩等のレクリエーションにより、気分転換が図られる活動を持続し、計画的に進めている。園芸活動もあり、野菜の成長を楽しむ機会もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の中心は買い物や近隣の散歩、病院受診に限定されるが、季節ごとの行事の中に思い出の場所や地域の行事等を取り入れるようにしている。外出支援できていないが室内レクを充実させ、楽しみの支援を増やす努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	機能に応じて、少額を所持している。買い物の機会に支払いをする利用者もおられるが、金銭を所持していない利用者の方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を預かっている利用者もいるが、希望に応じ使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に関しては毎日の環境整備で整えており、各部署の清掃には特に気を配っている。空調に関しては入居者の状況に配慮して調整をしている。また、装飾も入居者の意見を聞いたり一緒に制作もしており季節感を感じる事が出来る様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さいテーブルも配置し、小単位での居場所作りを工夫している。ソファや椅子を設置し自由に利用できるよになっている。時々家具などの配置替えなども行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅から入居するケースでは、利用者や家族がなじみの物を持ち込み、環境を整備する事があるが、長く自宅を離れて利用するケースでは、本人の生活の希望を考慮し、整備している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯、清掃の活動の他、飲み物の準備等、スタッフに頼らなくても自由に行える様に配置している。また、配下膳もできる方は行っている。興味が湧くように新聞等の配置にも気を配っている。		